

第4回 すこやか大阪21（第2次後期）推進会議 会議要旨

1 日 時

令和4年3月30日（水） 午前10時～12時

2 場 所

大阪市役所 地下1階 第10共通会議室

※「Microsoft Teams」を利用したWEB会議と併用

3 出席者

(1) 委員

【会場参加】 浅田委員、稲葉委員、杉本委員、高岡委員、豊川委員、浜谷委員、藤本委員、吉内委員（五十音順）

【WEB参加】 北吉委員、高橋委員、津田委員、中野委員、西本委員、福島委員、松田委員（五十音順）

(2) 事務局

【健康局】 新谷局長、吉村首席医務監、川勝健康推進部長、廣川保健医療企画室長、岡田生活習慣病担当医務主幹、片桐健康施策課長、松本保健主幹、田中健康づくり課長、岡村受動喫煙防止対策担当課長、貴田保健主幹、前田精神保健医療担当課長、内田管理課長、森保健医療対策課長

【此花区】 片山保健福祉課担当係長

【経済戦略局】 久田スポーツ課長

【福祉局】 七堂保健副主幹（代）

【こども青少年局】 友田管理課保健副主幹（代）

【教育委員会事務局】 川村保健体育担当課長代理（代）

4 報道機関取材者及び傍聴者

報道機関：無 傍聴者：無

5 次 第

(1) 座長の選出

(2) すこやか大阪21（第2次後期）の進捗状況について

① すこやか大阪21（第2次後期）概要版

② すこやか大阪21（第2次後期）目標値の推移について

(3) すこやか大阪21（第2次後期）の評価（案）について

① アンケート調査関連スケジュール

② 市民アンケート調査について

③ 中学生・高校生アンケート調査について

6 要 旨

(1) すこやか大阪21（第2次後期）の進捗状況について

事務局より、資料1「すこやか大阪21（第2次後期）概要版」、資料2「すこやか大阪

21（第2次後期）」の目標値の推移について説明。

（主な意見・質疑等）

資料1（P4）がん検診について

- ・新型コロナウイルスの影響でがん検診の受診控えがあり、がん検診受診率が低下していることに対して何か啓発が必要であると考えられるが、どのような啓発を考えているか。
→がん検診は不要不急ではないと啓発が必要と考えている。市のホームページやSNSや商業施設のデジタルサイネージで発信をしている。大阪市のがん検診取り扱い医療機関でポスター貼付もしている。さらに効果的な周知啓発のため、がん検診要件、受診要件を満たす国民健康保険の加入者に受診勧奨はがきを個別に送付している。
- ・がん検診受診率が低下しているが、平成28年は新型コロナウイルス蔓延以前のため、なぜ低下しているのかわからない。
→はっきりとした原因は特定できていないが、大阪市実施のがん検診の受診率は23年度から28年度で下がっていない。このアンケートは市民全体へのアンケートのため大阪市のがん検診受診者とは対象が異なるためだと考えている。

資料1（P5）大阪市の骨粗しょう症検診について

- ・大阪市の女性は骨折・転倒が原因で要支援・要介護が必要になる割合が高いので対策が必要ではないか。
→これまでは若年層へのアプローチとして、乳幼児健診に来た保護者向けに啓発をしてきた。大阪市の骨粗しょう症検診受診後、精密検査が必要だが未受診の人へ、自身の骨折リスクの数値「FRAX（フラックス）」を載せて受診勧奨の案内を送付している。また、骨粗しょう症の治療を継続せず、再度骨折するケースもあるため、治療継続動機付けのアプローチもしている。
- ・骨粗しょう症の対策だけでなく筋肉をしっかりと鍛えておくということも大切。特に下半身の筋肉を鍛えると、生活習慣病予防や認知症予防に繋がる。サルペコニア（筋肉が減少している状態）のために転倒して骨折するということもあり、骨粗しょう症対策とサルペコニア対策はセットで考える必要がある。

資料1（P5）循環器・糖尿病

- ・全国の傾向と同様、男性の場合は、脳血管疾患が原因で要支援・要介護が必要になる割合が高いので、血圧の管理が大切。若年層へは企業とも協力してアプローチしていく必要がある。

資料1（P6）栄養・食生活

- ・若年者の痩せについてだけでなく、高齢者の痩せの対策の項目を付け加える必要があるのではないか。
- ・新型コロナウイルスの影響で集まっただけの活動が難しい状況であった。LINEやメールで栄養に関する情報発信をしている区もある。プレママクッキングなどの講座や大阪市食生活改善推進協議会の調理実習は人数制限を設けている。レシピや健康に関する情報などを紙媒体で作成し、持ち帰れるようにしている。

資料1（P6）身体活動・運動

- ・20歳から64歳女性の運動の継続者がかなり少ない。働いている世代の運動継続者が極めて少ないといえる。企業とも協力してアプローチしていく必要がある。

資料1（P7）歯と口腔の健康

- ・う蝕のない者は増加しているが、歯磨剤にフッ化物が入ったり、少子化で保護者の子の

健康に対する意識の高まりのためだと考えられる。

- ・歯周炎を有する者の増加抑制はできていない。大阪市が受診勧奨をするという事業を実施予定。歯周病は身体の問題、健康寿命に密接に関与しているため、対策が必要である。

資料1 (P8) 人とつながり健康をはぐくむ地域づくり

- ・新型コロナ禍で人つながることが難しい状況であった。集会所利用が制限されるなど、施設側の要因もあった。新型コロナウイルスの影響のあった2年間の間に高齢者の方々が、足腰が弱っているということもある。
- マスクや消毒など対策を徹底しながら集まりを開催してほしい。

事務局より、資料3「アンケートスケジュール」、資料4「市民アンケート調査の概要」について説明。

(主な意見・質疑等)

- ・督促状の発送を2回から1回に変更した理由は、
→前は2回督促状の発送をしていた。今回は回収率が低ければ礼状兼督促状を一度だけ送付予定。回収数を増やすため、標本数を5,000から8,000に変更している。

事務局より、資料5「市民アンケート調査の項目」、資料6「大阪市民の健康づくり・生活習慣等に関する調査」について説明。

(主な意見・質疑等)

C 身体活動・運動

- ・運動機能の状態だけを聞くのではなく、こころの問題で運動等できていない場合もあると考えられる。
- ・高齢者にもアンケートを取るので、文言をわかりやすくする必要がある。

G 休養・ストレス

- ・睡眠で休養がとれているかという質問について、睡眠は長すぎても短すぎてもよくない。睡眠の質がわかるような質問にする方がよい。

H がん検診について

- ・前立腺がん検診は対策型検診としては推奨するに足りる根拠が不十分との見解ではないか。
→対策型検診としては推奨されていないが、前立腺がんは近年急増しており、今後も増加すると考えられる。死亡数は多くないものの高い割合で骨転移を起こす。QOLの著しい低下も考えられ、健康寿命の延伸には悪影響がある。大阪市は検診のメリット、デメリットを紹介した上で健診実施している。
- ・骨粗しょう症の検診ががん検診の項目の中に入っているため、誤解解されないか懸念される。

I 健康づくりについて

- ・問40「あなたは現在どのような社会活動に参加していますか」の設問は社会活動だけでなく、「地域活動・社会活動」とした方がわかりやすいのではないかと。1番の選択肢は、「町会自治会・地域活動協議会」としてはどうか。

事務局より、資料7「中高生アンケート調査の概要」 資料8「中高生アンケート調査の項目」、資料9「すこやか大阪2 1健康づくりアンケート(中高生対象)」について説明。

(主な意見・質疑等)

アンケート項目について

- ・コロナ禍での調査ということになりますので、ストレスに関する質問項目があった方がよいのではないか。歯の項目も入れられないか。
- アンケートの調査用紙を 1 枚にまとめるよう学校側から要望があり、これ以上の項目追加は難しいが、検討する。

回収方法

- ・アルコールやたばこの項目も含むので、回収方法は注意が必要ではないか。
- 封緘して見えない状況で回収するため個人は特定されない。

理想体重

- ・自分の理想を聞いてみるということか。
- 女性は特に視的な体重が適正体重からのズレがあることがある。健康講座等で利用していくためにデータとてとっておきたい。